

おらんど

JA全農えひめ情報

■特集

JA全農えひめ畜産事業の取り組み

6

2017・June



▶国道317号からも見える栄光酒造。手前は社長の清水健太郎さん



愛媛の酒蔵めぐり

23

栄光酒造株式会社

代表銘柄 酒仙栄光
創業 1897年（明治30年）
代表者 代表取締役社長 清水 健太郎
住所 松山市溝辺町甲443
TEL 089-977-0964

- ▲(右)「酒仙栄光 特別大吟醸」。長年の技術のすべてを注ぎ込んだ杜氏の最高傑作。桐箱仕様
(中) 県産・松山三井100%、その名も「酒仙栄光 純米吟醸 松山三井」。淡麗な中に、米の旨みが生きる当社いちおしの美酒
(左)「蔵元の梅酒」。県産の南高梅を本格米焼酎で漬けこみ、低温熟成した逸品。杜氏の本気度がうかがえる美味い梅酒

高縄山系より湧き出でる「湧ヶ淵」の名水を使用し、地元で「ワクブチの酒」と愛されし。昭和43年に経営を継ぐ「栄光酒造」が新しい歩みを始めます。

地元の名水を仕込み水に、米は松山三井が主の県産米約8割、通常は業者一任の精米も「造りは精米に始まる」と自社精米、雑菌と闘う衛生面は大型洗濯機、高圧スチーム洗浄機導入で負担の軽減、大規模冷蔵貯蔵施設完備など、随所に新しい知恵や技術を取り入れ、越智杜氏・岡田彦夫氏こだわりの技と心を継承する大山泰介杜氏による納得のいく昔ながらの酒造りです。

嗜好の多様化により20年程前に梅酒の製造を始め、続いてミカン、七折小梅、キウイ、柚子など県産果実のリキュール製造を開始。松山市伊台の障害者施設と連携した「ぶどうの酒」も誕生します。平成26年に「10種のハーブと梅のお酒『満』」が、28年には純米酒仕立てスパークリングの酒「おしゃべり金魚」が、松山ブランド新製品コンテスト「NEXT ONE」の最高位・県知事賞に輝きます。多彩な酒造りには日本酒の蔵としての誇りがあります。いつの時代も蔵の存続、リキュール製造による年間雇用で優秀な人材育成です。

俗事を離れ心から酒を楽しむ「酒仙」の魂を抱き、創業から120年、栄光酒造は海外にも進出し未来への歩を進めていきます。

酒仙栄光

めぐり〜ど

June 2017

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



梅雨時期のどんよりとした風のない蒸し暑い夜なのに、お父さんの一声で、浴衣に着替えて外出を。はてさて、どこへ行くのやら…渋々ついていく子どもたち。田植えが終わった農道脇の小川で、暗闇に突然現れる「光の王国」に、思わず歓声があがります。寝苦しい夜を吹き飛ばすお父さんのサプライズ・ツアー大成功！今夜はいい夢が見られそうですね。

●表紙：蛭狩り
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.198

愛媛の酒蔵めぐり②③〜栄光酒造株式会社

2

〈特集〉

JA全農えひめ畜産事業の取り組み

消費者に支持される安全・安心ブランド
伊予牛「絹の味」・「ふれ愛・媛ポーク」の
認知度向上と生産農場の経営安定をめざす

6

ねっとわーく

7

統計BOX

8

ふるさと ESSAY VOL.266

菜の花

高市 俊次さん

10

TOPIC NEWS

15

なんでもBOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉キュウリ

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

消費者に支持される安全・安心ブランド 伊予牛「絹の味」・「ふれ愛・媛ポーク」の 認知度向上と生産農場の経営安定をめざす

JA全農えひめ畜産部は、平成28年度より輸入畜産物の増加や産地間競争の激化、多様化する生産者のニーズに迅速に因應するため、畜産振興対策課（新設）を設置しました。

また、希薄化する消費者の産地意識を払拭し、直接訴求・共感醸成をすすめるため、「全農のお肉屋さん」を出店するなど、系統ブランド力の強化に取り組み、生産者の所得向上と経営安定化の取り組みを進めています。

県内畜産生産基盤の動向

平成29年度の畜種別取扱頭数は、県内・近畿圏を中心とした需要に因應するため、肉牛3,010頭・肉豚192,500頭を目標としています。全国の生産動向は農林水産省「畜産統計」（平成28年2月1日現在）によると（表1）のとおりで、後継者不足や、生産者の高齢化等により

廃業が進んでいます。県内の生産基盤は、昨年度より養豚経営農家が高齢により一戸が廃業。また、肉牛経営農家も高齢化に加え素牛価格の高騰もあり6戸が廃業するなど、生産基盤の減少に歯止めがかからない状況にあります。

このため、JA全農えひめは、JAえひめアイパックス（株）やJA西日本くみあい飼料（株）などグループ会社と連携し、生産性向上対策や規模拡

大対策、繁殖牛導入による素牛供給体制整備、経営指導・技術研修会等を通じて生産農場の所得向上と経営の安定を図りながら、産地の維持拡大に努めています。

肉牛・肉豚ともに相場は
下がり基調で推移

平成29年度の牛肉相場は、年明け以降、末端消費の高価商品需要の低迷から、相場は軟調となり、昨年度対比で和牛A4（去勢）が7%の下げ、A3（同）で12%の下げ、交雑B3（同）でも3%の下げとなつて
いることから、6月以降は和牛A4
でkg当り2,400円（税込）、A3
で同2,150円（同）、交雑B3
で同1,500円（同）の相場展開

を予想しています（東京市場枝肉相場）。豚肉相場は、建値上物価格で4月は立ち上りこそ昨年度を3%上回るkg当り508円（税込）となりましたが、3月にチルドポークの輸入量が単月としては過去最高の36,000tを超えており、昨年度よりkg当り10円～20円下げの相場展開が予想されています（全農ミートフーズの情勢資料より考察）。このため、牛肉・豚肉ともに、昨年度の相場よりも下げ基調で推移するものと想定され、生産性の向上に取り組み、相場に左右されない経営体質の強化や販売対応が急務と考えます。

生産農場の所得向上と
生産基盤の強化に向けた
取り組み

◆肉牛事業の強化対策

肉牛生産基盤の強化にあたっては、特に繁殖基盤の維持に重点を置き体制整備をすすめます。

- ①県本部肉用牛センターで取り組んでいるCBS（キャトル・ブリーディング・ステーション）事業（図2）の拡大を図るため、新規生産者の参入推進や、JAと連携した新たな事業方式の確立を目指します。また、同場での繁殖牛導入をすすめる、野村臨時家畜市場への和子牛上場頭数の増頭に努めます。
- ②JA直営の仔牛育成所を、「全農畜産基幹産地登録制度」認定農場に登録し、和牛素牛生産増頭をすすめます。
- ③モバイル「牛温計」や牛呼吸器病症候群病原体遺伝子一括検査など、先進技術の普及推進を図り、生産性の向上に努めます。
- ④肉牛生産者協議会の活動では、伊予牛「絹の味」枝肉研修・共励会の充実と定期開催、先進地視察や生産技術研修を実施し、研鑽に努めます。

表1 平成19年と平成28年の畜種別飼養戸数・頭数比較 畜産統計より

	平成19年①		平成28年①		平成19年対比②÷①	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
肉用牛	82.3千戸	2,806千頭	51.9千戸	2,479千頭	63%	88%
養豚	7.6千戸	9,759千頭	4.8千戸	9,313千頭	67%	95%

図1 肉用牛センター「CBS事業」に向けた取り組み

脆弱化する愛媛県内繁殖基盤ならびに肉牛基盤を維持・拡大するため、
「安心して牛飼いができる産地づくり」
を目指し、全農愛媛県本部 肉用牛センターにCBSを設置

I. 期待できる効果

1. 生産コストの低減
2. 小規模・零細農家の規模拡大
3. 多様な担い手の育成による生産基盤の安定化
4. 労力の軽減
5. 高齢農家の経営維持
6. ブランド牛の維持、拡大

II. CBS施設の内容

1. 繁殖支援
 - (1)一時預かり：繁殖農家が疾病や傷病等で一時的に飼養管理が困難な場合繁殖牛を預かる。
 - (2)繁殖育成：導入育成牛や自家保留雌牛を受託し、育成・受精・妊娠鑑定を行う。
 - (3)母子委託：妊娠牛の分娩や受精・妊娠鑑定を行う。
2. 哺育・育成支援
 - (1)哺育牛受託
 - (2)子牛育成牛受託
3. 繁殖経営支援（和牛素牛生産）
 - (1)繁殖受託経営：繁殖経営全般を受託し、素牛生産を行う。

◆特集：JA全農えひめ畜産事業の取り組み

図2 「ふれ愛・媛ポーク」認定農場の所得向上と経営安定のために

① 生産性向上対策

生産目標Ⅰ

■母豚1頭あたり26頭の肉豚出荷・上物率70%以上を目指す

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
母豚1頭当り26頭の肉豚出荷（平成28年度実績21.9頭）	24頭	25頭	26頭
母豚上物率70%以上（平成28年度実績51.4%）※1	60%	65%	70%以上

※1：肥育期間170日で、枝肉重量70kg以上80kg未満を目標に上物率を高めるよう出荷
※2：定時定量出荷とし、枝肉重量の均一性に重点を置いた対策として実施

実施具体策

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①多産系ハイコープ豚への更新（母豚構成割合）	6割	8割	全母豚
②PICS加入推進と経営分析（新規全額・継続1/2助成）	7戸	9戸加入	全戸加入
③AIの活用促進（新規・夏場対策1ドース100円助成）	継続	継続	継続
④全農畜衛生検査クリニック加入促進（半額助成）	5戸	8戸加入	全戸加入
⑤個別検討会の実施・改善が必要な農場の重点指導	継続	継続	継続

② 養豚用配合飼料対策

目 標

- 高品質な飼料提供を通じ生産性向上
- 有利原料の活用によるコスト低減
- 多産系ハイコープ豚の能力に対応した普及体系の普及推進



実施具体策

- 倉敷工場の最新設備の活用で製品粒度の改善等による飼料要求率の向上
- 多産系ハイコープ豚の育成用飼料の検証と使用推進
- 種豚用飼料改良の検証とさらなる見直し
- 肥育用飼料の使用原料・栄養成分の見直しによる肉質の安定と低コスト化
- 生産性向上資材の導入を推進

③ 生産基盤対策

生産目標Ⅱ

- 出荷頭数12,100頭増頭するため、常時4,840頭規模の離乳・肥育施設の整備を目指します
- 後継者育成を支援するための教育制度を設立し、強固な生産基盤の確立を目指します

実施具体策

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①既存農場の規模拡大、施設の増設	検討	検討	実施
②県内休閒施設の積極的活用	2戸活用	1戸拡大	1戸拡大
③多産系対応による集約施設整備	調査	検討	整備
④後継者育成支援制度の設立	設立	実施	実施
⑤県版基幹産地登録制度の設定、活用	設定	実施	実施

④ 販売対策

目 標

- 産地間競争に打ち勝つ銘柄の確立に努め、食育活動に積極的に取り組みます
- 安定した販売先の確保とマッチング販売による有利販売を進めます

実施具体策

- 消費宣伝・販売促進活動の実施、販売先への理解醸成
 - 年間延100回SPレディ店頭販売投入により消費者の認知度向上、理解醸成
 - テレビCMのリニューアル、放映回数増により消費者へのアピール
 - 県内外企業へのプレゼンテーション、コラボ企画・イベント等への協賛
 - 直営店舗「全農のお肉屋さん」による販促およびブランドPR
 - 学校給食などの食育活動やふるさと納税など産地消費への対応強化
 - マッチング販売先との意見交換会の開催・先進地研修会の開催

◆肉豚事業の強化対策

ふれ愛・媛ポーク認定農場の所得向上と経営安定に資するため、JA全農ならびにグループ会社は、平成29年から31年度の3か年の生産目標の設定や生産性向上対策・養豚用配合飼料対策・生産基盤対策・販売対策実施具体策を整備し取り組みます。

①生産目標を母豚一頭当たり26頭出荷・上物率70%を目指します。多産系ハイコープ豚への更新率向上や全戸のPICS加入推進と経営分析の実施、AIの活用促進や全農畜衛生検査クリニック加入促進を図り、効果的・定期的な個別検討会を実施し出荷頭数12,100頭増頭に努めます。

②生産性向上の要となる多産系ハイコープ豚の供給にあたっては、事業移管により平成27年度末をもって閉鎖していた旧広見種豚増殖センターを平成28年8月から全農畜産サービス(株)へ賃貸し、SPF種豚場として再スタートさせました。現在、県内供給を優先した種豚供給体制整備をすすめています。

③規模拡大や施設増設等の意欲ある生産者に対しては、関連補助事業活用のための支援を実施すると共に、「県版基幹産地登録制度」の設定・活用に向け取り組みを強化します。

④養豚経営者協議会の活動では、昨年度に引き続き階層別セミナーの定期開催や先進技術の修得に努め、経営体質強化に取り組みます。また、後継者育成を支援する教育制度の設立を目指します。

◆配合飼料事業対策

JA西日本くみあい飼料(株)の工場集約拠点(倉敷新工場)の最新設備の活用により、高品質な飼料提供をすすめ、有利原料の活用によるコスト低減を目指し、多産系ハイコープ豚の能力に対応した給与体系の普及推進を図ります。また、肉質安定と低コスト化を目指した使用原料や栄養成分の見直しに取り組み、生産性向上のための資材導入を推進します。



▲西日本くみあい飼料(株)倉敷新工場

ブランド認知度向上と 販売力強化への取り組み

輸入畜産物の増加や県外産の流入、また希薄化する地産地消への意識を払拭し、消費者への認知度向上、共感醸成など販売力強化に努めます。また、安定した販売先の確保とマッチング販売（販売先との共同企画提案）を展開します。

①大手スーパー・量販店でのSPレディによる定期的な試食宣伝活動を継続します。また、今秋開催のえひめ国体では専用シールを作成し、県内外の消費者に伊予牛「絹の味」「ふれ愛・媛ポーク」の宣伝に取り組みます。

②伊予牛「絹の味」「ふれ愛・媛ポーク」のテレビCMをリニューアル（今秋以降放映予定）し、認知度向上に努めます。

③学校給食や各種イベントへの食材提供や食育活動、ふるさと納税返礼品への利用、また、昨年4月開店の精肉直売所「全農のお肉屋さん」での伊予牛「絹の味」（特に和牛上位等級）、「ふれ愛・媛ポーク」や県ブランド和牛「愛媛あかね和牛」の販売をすすめるなか、各生産認定農場の紹介や共感醸成など消費者への直接訴求を図ります。

また、県行政と連携し商流・物流上の課題などを整理し、愛媛産和牛の輸出を試行します。

④JAえひめアイパックス（株）「品質改善プロジェクト」（3年目）やスーパー・量販店の検品会参加などをすすめる、産地間競争に打ち勝つ施設整備と加工技術の向上に努め、また、販売先との意見交換会・視察研修会を開催し、取扱数量の拡大や新規取引先の開拓に努めています。なお、施設整備後36年が経過したJAえひめアイパックス（株）の施設更新については、「食肉処理施設整備構想検討協議会」を設立し、将来の畜産生産基盤構想、食肉流通構想等を協議する中、今後の施設整備の在り方について検討しています。

討しています。

全国から見た愛媛県内の肉牛・養豚飼養頭数は、肉牛（繁殖牛を含む）が第36位、養豚が第15位と、飼養規模からみると上位県とは言えません。しかし和牛格付成績ではA4以上率81・4%、母豚1頭当たり肉豚出荷頭数24・1頭と他県に負けない生産成績を保持しています。JA全農えひめ畜産部では、安定生産と高い品質のもと、系統ブランド伊予牛「絹の味」「ふれ愛・媛ポーク」がまずは県内消費者に認知され、共感される取り組みを強化するとともに、JAグループが連携し、生産者・地域ニーズに合わせた迅速な対応をすすめる、他県畜産産地に負けない生産性の向上や経営体質の強化を支援し、生産農場の所得向上と経営安定に努めていきます。

JA全農えひめ畜産部直営店



全農のお肉屋さん

- ◆愛媛県東温市北野田345
(ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場内)
- ◆TEL 089-990-1525
- ◆営業時間 9:00~16:30
- ◆定休日 月曜日
(祝日は営業します)



▲えひめ国体バージョンの「ふれ愛・媛ポーク」、伊予牛「絹の味」のシール



▲「全農のお肉屋さん」では、愛媛県産ブランド肉のほか、店長こだわりの新鮮なホルモンや手作りお惣菜も販売している



▲2016愛媛みかん大使の皆さん

果実課

THE

ねとわーく

「愛媛産かんきつをPRしていただく」 2017愛媛みかん大使を募集

J A全農えひめは、「果樹王国えひめ」のみかん・伊予柑キャンペーンをはじめ愛媛産果実の消費宣伝活動に協力していただく『2017愛媛みかん大使』4人を募集します。みか

ん大使による消費宣伝活動は昭和34年度から実施しており、今回が59回目（59代目）となります。

◆応募資格

① 愛媛県内在住の18歳以上（高校生は除く）の元気で明るく好感の持てる方。

② モデルなど特定の会社や団体等と専属契約していない方で、他のコンテストに選出されていない方。

③ 愛媛県産果実の消費宣伝キャンペーン等の活動に必ず参加でき、明朗・快活で表現力豊かな方。

④ 勤務先・学校等の理解と協力が得られ、愛媛みかん大使として年間活動できる方。

◆応募方法

① 所定の応募用紙または既存の履歴書等に必要事項を記入のうえ、サービス判程度の上半身の写真

を添えて、応募先まで郵送ください。

② 応募用紙は、県内J A・J A全農えひめ・リジエール松山・各テレビ局・愛媛新聞社・各大学・専門学校の受付等に置いてあります。また、J A全農えひめホームページからも印刷できます。

③ J A全農えひめホームページ「みかん大使募集」ページおよび携帯サイトからも応募できます。※応募書類・写真は返却しません。

◆募集期間

① 平成29年6月9日（金）～7月10日（月）（当日消印有効）

◆審査方法

① 事前審査（書類審査）

7月20日（木）

② 最終審査（面接審査）

8月9日（水）、リジエール松山で面接審査を行い、4人を選考。

J A全農えひめ、愛媛県果樹同志会、マスコミ関係者らが審査します。

◆任命式（8月24日（木））

関係者による任命式を行い、マスコミに発表します。

◆副賞ならびにプレゼント

① 愛媛みかん大使（4人）

委嘱料20万円を進呈します。

② 最終審査出席者全員

書類審査に合格し最終審査に出席いただいた方には、交通費と愛媛の柑橘ジュースを進呈。

◆「愛媛みかん大使」の活動

① 任期

平成29年9月～30年8月末

② 活動内容（年間40日程度）

全国各地での表敬訪問、テレビ・各種イベント出演、試食宣伝キャンペーン等への参加（日当・交通費・制服一式を支給）。

【キャンペーン等スケジュール】

● 11月（みかん）

東京・大阪

● 2月（伊予柑）

東京・大阪・北海道他

● 4月

「オレンジデー」関連イベント

応募先・問い合わせ

〒790-8555

松山市南堀端町2番地3

J A全農えひめ果実課

愛媛みかん大使募集係

☎089-948-5764

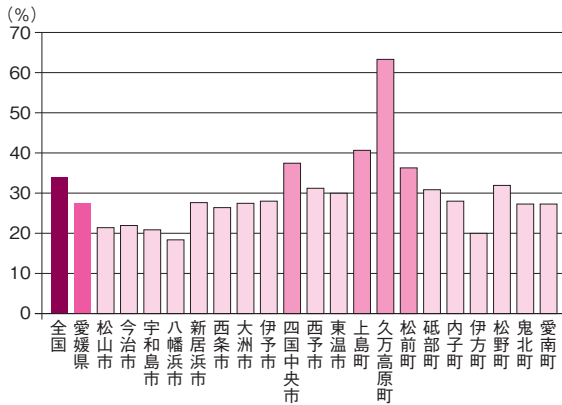
【ホームページアドレス】

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

統計BOX

環境にやさしい農業に取り組む —2015農林業センサス農林業経営体調査等結果から—

図1 環境保全型農業に取り組んでいる経営体割合



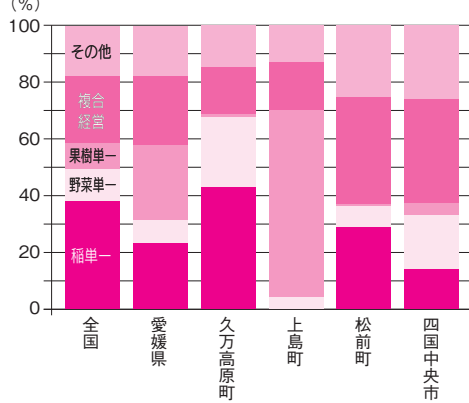
出典：2015農林業センサス農林業経営体調査結果

特 別栽培農産物にかかる表示が「イドライン」が平成4年に制定され、今年で四半世紀を迎えます。このガイドラインをもとに、環境保全型農業のより一層の推進とその普及・定着に向け、生産・流通等各段階で取組が進められています。こうした中、2015農林業センサスでは、環境への負荷を軽減した農産物の栽培（販売目的）についてお伺いしています。今月は、その結果から、県内の農業経営体の取組状況についてみてみましょう。

県内で環境保全型農業に取り組んでいる経営体はおよそ4分の1

図1は、化学肥料や農薬の低減、堆肥による土作りのすべて、またはいずれかに取り組んでいる経営体の割合です。全国では34%の経営体が、県内では27%の経営体に取り組んでいます。さらに、県内の各市町をみると、久万高原町（64%）、上島町（40%）が最も高い割合を占めています。

図2 農業経営組織別経営体割合

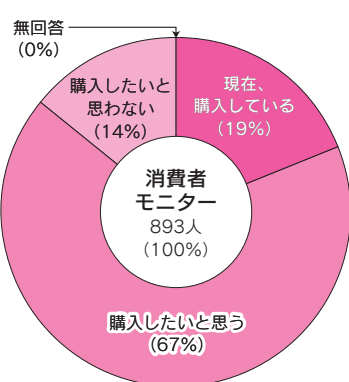


出典：2015農林業センサス農林業経営体調査結果

環境に配慮した農産物購入の意向がある消費者は8割超

次に、環境に配慮した農産物に対する消費者の意向を見てみましょう。図3は、平成27年度農林水産情報交流ネットワーク事業（農水省）全国調査で行った「有機農業を含む環境に配慮した農産物に関する意識・意向調査」のうち、特別栽培農産物の購入意向について、893名の消費者モニターからいただいた回答結果です。関心度は非常に高く、すでに購入している、あるいは購入したいと思う消費者は合わせて8割を超える結果となっています。

図3 特別栽培農産物等の購入の意向について



出典：平成27年度農林水産情報交流ネットワーク事業全国調査結果

に購入している、あるいは購入したいと思う消費者は合わせて8割を超える結果となっています。また、購入している、購入したいとする消費者モニターは「安全だと思ふ（85%）」「環境に配慮した農業を行う生産者を応援したい（48%）」「環境保全に貢献したい（31%）」の順となっています。食料・農業・農村基本法では、農業の持続的発展を図るために農業の自然循環機能が維持増進されることが大切だとして、農薬および肥料の適正な使用の確保、家畜排泄物等の有効利用による地力の増進、その他必要な施策を講ずるとしています。農林水産省では、平成23年から環境保全型農業直接支払対策、平成27年には多面的機能発揮促進法等を整備し、生産者への支援を行うとともに、消費者へはそれら農産物の情報提供等を行っています。詳しくは農林水産省ホームページ等をご参照ください。（★検索ワード「環境保全型農業」「特別栽培農産物」「エコ愛媛農産物」）中国四国農政局愛媛支局 統計チーム



菜の花

私は農村地帯で生まれ育ちましたから、小学校の頃は、春になると、まだ一面の菜の花畑が広がっていました。「花明かり」は、満開の桜が、あたりの闇をほのかに明るくすることをさしますが、菜の花もまた、夕暮れになっても、しばらくは黄の色が灯っていて、自然とその周りに集まって野遊びをしたものです。

菜の花はその名のとおり、「野菜の花」という意味でしょうから食用になりますが、大人は、「菜種」とか「アブラナ」と呼んでいた記憶があります。「油菜」の実を搾って、菜種油を採ることを知ったのは、小学校の高学年になってからでした。どうも、別品種だったようです。

江戸時代、この菜種油は、おもに照明器具に使われました。かけそばが十六文、お米が一升百文、大工の手間賃が一日五百文という時代、一升四百文もした高級品です。現在価格で、一文約二十円から二十五円とすると、ずいぶん高いことがわかります。

余談ですが、「鬢付け油」という、一種の整髪剤があります。これには、水油とも呼ばれていた椿油や菜種油、それに木蝋を溶かしたものが入っています。相撲取りの鬢付け油には、丁子がふくまれていて良い匂いがあります。鬢は、左右耳側の部分の髪をさしますが、昔の人は長髪ですから、当然ここも固めます。団塊世代やその父親が、整髪料のチックやポマードで固めていたのと同じです。

伊予のお国言葉に「びんだれ」と言う言葉があつて、服装などにだらしない人のことを言いますが、「鬢垂れ」とは、もと、この部分をしっかりと固めていない人のことでした。

芋にも、「鬢付け芋」というのがあります。鬢付け油と同じ、黄色くねっとりとして甘みが強く、現在鹿児島県が品種登録しているブランドです。学生のころ、たわむれにバナナを焼いて食べたことがありましたが、味はよく似ていました。もっとも、粉ふきのようなホクホク感のあるものを好

高市 俊次

SHUNJI TAKAICHI

昭和23年12月18日生まれ、伊予郡砥部町出身。早稲田大学教育学部国文科卒業。元高校教師。

昭和59年、郷土俳人の交流を描いた作品「花評者石山（はなひょうしゃせきざん）」で、第9回歴史文学賞受賞。その後、神宮であり書家として著名であった「三輪田米山（みわだべいざん）」の生涯を、「歴史読本」に連載し、昭和62年、新人物往来社より「瓢壺（ひょうこ）の夢（ゆめ）」と題して単行本化。平成元年、花にまつわる34の掌編をまとめた「花鎮（はなしず）め」で、第4回愛媛出版文化賞受賞。平成28年、ロシア兵墓地の顕彰に後半生を費やした、才神時雄とその妻を描いた「千年の墓標」（執筆者名は三島麻緒）で、第3回晩成文学賞（平凡社）受賞。



▲菜の花畑にて。高市俊次さん

む人もいます。子規は焼き芋が好物でしたが、食べていたのは、こちらの武蔵野台地で採れた方でしょう。

さて、菜種油に話をもどしますが、庶民はというと、代用品として「魚油」を使っていたようです。鰯油、鯨油などは、ほぼ半値で買えました。もちろん行灯などを使っている家は少なく、むき出しの小皿に灯芯をひたして火をつけるだけです。ただ、魚油は、

臭いのが欠点でした。

明るさはどうでしょうか。灯りを頼りに本を読むとします。残念ながら、電力はわずかに約一ワット、つまり豆電球程度の明るさしかありません。今と違い、庶民の読む本の文字の大きさは、一センチ角くらいのもものもありましたから、読めないことはないでしょう。しかし、これでは明るいというより、かえって暗いという感じです。で

すから、わずかな油代も儉約するとなると、日が沈むと食事をすませて早々に床につき、日の出とともに起きて仕事をするというのが、日常生活だったようです。

夜なべは、月の光でもすることもありました。日の光、月の光は、とてもありがたかった訳です。

菜の花や月は東に日は西に

暮れようとする、春の一日の情景です。俳人と謝蕪村の有名な句ですが、このように江戸時代は、菜の花畑がどこにも見られたということでしょう。蕪村は画家でもありましたから、まさに画を見るような句です。

この時季は、またよく雨が降ります。「菜種梅雨」と言っていますが、この雨はどことなく優しく、明るい印象を与えてくれます。

(了)



▲石川県の七尾和ろうそくの老舗・高澤ろうそく店の菜種ロウを主原料とした「菜の花ろうそく」。やさしい灯に穏やかな刻が流れる

●第22回 愛媛県子牛品評会

県知事賞に手嶋通さんと大森康敬さん

J A全農えひめ畜産生産課は、4月18日、西予市野村畜産総合振興センターで「第22回愛媛県子牛品評会」を開きました。優等賞（県知事賞）は、雌牛の部で手嶋通さん（J A周桑）の出品牛「いしづち289」、去勢の部は大森康敬さん（J A愛媛たいき）の出品牛「茂晴照」が受賞しました。

品評会には、県内7 J Aから生後1年未満の県内産黒毛和種107頭（雌牛の部41頭、去勢の部66頭）が出品され、月齢に見合う発育をしているか、体積、子牛としてのバランス、資質、品位などを基準に審査し、各賞が決まりました。

大森さんは、「健康で元気な牛を育てようと濃厚飼料を控えめに粗飼料をたっぷり与えた。まさか県知事賞を受賞できるとは。今後も良い子牛を出品できるように頑張っていきたい」と笑顔で知事賞受賞を喜んでいました。

品評会後に今年度第1回の和子牛臨時市場が開催され、全国的な子牛相場の高値止まりもあり、1頭あたりの平均価格（税込）は雌が前回2月の価格を9,756円下回る68万136円、去勢は前回は1万9,906円下回る80万2,178円で取引されました。1頭あたりの最高額（税込）は去勢97万920円でした。

J A全農えひめ畜産部によると、2016年度に開いた臨時市場6回の実績は、上場頭数620頭



県知事賞を受賞した大森さんと「茂晴照」

で前年と比べて62頭減。1頭あたりの平均価格（税込）は前年を13万1,000円上回る75万9,000円でした。

繁殖基盤の維持拡大を加速させるため、J A全農えひめは肉用牛センターを活用し、繁殖農家の負担を軽減するCBS（キャトル・ブリーディング・ステーション）事業を展開し、行政と一体となって県ブランド「愛媛あかね和牛」の生産、販売体制の整備と和牛素牛の生産増頭に取り組んでいます。

●J A全農杯チビリンピック小学生8人制サッカー IN 四国 FC今治U12が準優勝！

「J A全農杯チビリンピック小学生8人制サッカー IN 四国」が、4月1日と2日の2日間、愛南町のあけぼのグラウンドで開かれ、徳島県代表の田宮ビクトリーサッカー少年団（田宮ビクトリー）が優勝、愛媛県代表のFC今治U12が準優勝でした。田宮ビクトリーは、5月3日から横浜市で開催される全国決勝大会「J A全農杯チビリンピック小学生8人制サッカー大会」への出場権を獲得しました。

同大会には、予選を勝ち抜いた4県の代表12チームが出場。選手たちは、家族・関係者の熱い声援を受け、予選リーグと決勝トーナメントを戦いました。

惜しくも準優勝となった愛媛県代表FC今治U12の渡辺憲司監督は、「残念だったが、課題を見つけて次の試合に繋げていきたい」と話しました。



準優勝したFC今治U12

J A全農は、子どもたちの健やかな心身の成長を願い、未来の夢を応援しようと、同大会に特別協賛しており、J A全農えひめは、副賞・参加賞としてジュースを贈りました。

●第3回「しずく媛」サミット

愛媛生まれの酒米「しずく媛」の需要拡大と消費拡大を！

J A全農えひめ、産地J A、愛媛県酒造組合、愛媛県などで組織する愛媛県米麦振興協会は、愛媛県で育成された酒造好適米「しずく媛」のブランド化に向けて、4月21日、松山市のJ A愛媛で第3回「しずく媛」サミットを開きました。

サミットでは、「しずく媛」生産者と酒造会社の交流を通じて連携をさらに強化し、生産振興と需要拡大を進めようと平成27年から実施しており、今回が3回目となります。愛媛県酒造組合・蔵元、生産農家、J A・J A全農えひめ・県の関係者など約60人が参加しました。

第1部では、八幡浜支局産地育成室が栽培に関するこだわり、県農林水産研究所が高品質生産への取り組みを紹介したほか、県農産園芸課と愛媛県酒造組合から今後の生産と販売拡大への取り組みの報告があり、さらなる生産振興と需要拡大を目指すことを確認しました。第2部では、上記関係者に加えて一般消費者約70人を招いての利き酒会や、各蔵元から「しずく媛」を使った新酒の紹介などを行いました。

「しずく媛」は、平成19年に品種登録された愛媛県初の酒造好適米（酒米）。「愛媛の米からおいしい愛媛の酒のしずくが生まれるように」という願いを込めて名付けられました。現在、愛媛県内21の蔵元が、このお米を使って統一銘柄酒「しずく媛」を販売しています。

J A全農えひめでは、19年産から本格的に作付推進を行うとともに、23年産より県・関係機関と一体となり、産地適性を見極めながら作付



試飲をする一般消費者

誘導を行っています。28年産は46haで契約栽培し、約124tを県内の蔵元を中心に出荷しました。

29年産は、148tの集荷量を見込んでおり、愛媛県酒米推進コンソーシアム事業等にも取り組む中で、「しずく媛」の需要拡大、消費拡大に取り組んでいます。

サミットに先立ち、最優秀賞の三瀬清隆さん（J Aひがしうわ）など28年産で高品質・高収量をあげた「しずく媛」優良生産者を表彰しました。その他の優良生産者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJ A名）。

▽優秀賞＝末光弘和（ひがしうわ）、有限会社豆道楽（ひがしうわ）、徳山義恭（ひがしうわ）、松本久美（ひがしうわ）、谷口勝彦（ひがしうわ）、井上勲（ひがしうわ）

●愛媛県農業振興連絡協議会 理事会

県行政とJ A全農えひめが連携強化し農業振興を！

愛媛県農業振興連絡協議会は、4月17日J A愛媛で平成29年度の理事会を開き、専門部会9部会の28年度の活動報告、29年度の活動計画を確認しました。

同協議会は、県行政とJ A全農えひめが連携し、愛媛農業の振興と農家経済の安定に寄与することを目的に、昭和32年に発足。事業別に9専門部会を設置し活動しています。

理事会には、J A全農えひめの小越愼介県本部長、県農林水産部の田所竜二部長など関係者約34人が出席。J A全農えひめから「農林水産・地域の活力創造プランに係るJ A全農の対応」、愛媛県から「えひめ次世代ファーマーサポート事業」についての報告や、意見交換を行い、連



携して愛媛農業の振興に取り組むことを確認しました。

●JAえひめフレッシュフーズ(株)

生産体制強化へ 中予地区新農場の地鎮祭を開催

JAえひめフレッシュフーズ(株)は、中予地区直営農場建設予定地(松山市)で4月11日、地鎮祭を執り行いました。今年度末頃に第1期の工事(約4万羽分)完成を見込んでいます。

県内の採卵養鶏事業の経営基盤は、高齢化や後継者不足、施設の老朽化など脆弱化傾向となっており、中予地区での直営鶏舎新築により生産体制を強化するとともに、消費者に新鮮で安全、安心な県内産鶏卵を供給することを目的としています。

新農場は、成鶏舎2棟4室、集卵室、堆肥化施設、管理棟などで構成され、成鶏舎1室あたりの飼養羽数は、約2万羽です。最新型の直立多段式ケージシステムを導入し、ハエや臭気の発生防止、縦型密閉式鶏糞発酵装置「コンポスト」による近代的な堆肥処理や鶏舎洗浄水専用の浄化槽を設置し、洗浄水の場外流出を防ぐなど環境保全への取り組みのほか、省エネ対策や1羽あたりの専有面積を大きく設けるなど動物



愛護への取り組みもしていきます。

JAえひめフレッシュフーズ(株)の津満社長は、「この新農場が県内採卵養鶏農場のモデル農場として整備・運営していくよう役職員一丸となって取り組んでいきたい。」としています。

●全農杯全日本卓球選手権ホープス・カブ・バンビの部愛媛県予選 全国大会出場をめざし少年少女が熱戦!

7月28日から神戸市で開催される全農杯全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)への出場をめざし、5月13日松山市北条スポーツセンターで、愛媛県予選会が開かれ、少年少女59人が出場しました。

この大会は、県卓球協会が主催する小学生対象の大会では最大規模を誇ります。男女別に小学6年生以下のホープスの部、4年生以下のカブの部、2年生以下のバンビの部の3クラスに分かれ、予選リーグと決勝リーグを戦って、男女各クラス2位以上の選手とペンホルダー推薦2人、特別推薦1人を加えた計15人が、全国大会に出場します。昨年の全国大会では、愛媛県代表が優勝しており、今年も上位入賞が期待されています。

男子カブの部で優勝した川元有輝さん(今治青い麦)は、今大会で4年連続の全国大会出場を決めました。「全国大会では優勝をめざして、日々の練習も頑張りたい」と副賞を手にも力強く話していました。

JA全農えひめは、参加賞のほか、男女各クラス3位以上の選手に副賞として「えひめみか



カブ男子の部優勝の川元さん(写真左)、と2位の木下春翔さん(中央・常盤HSクラブ)、3位の矢野友翔さん(常盤HSクラブ)

んいよかんジュース」とひめライス「愛媛県産にこまる」を贈呈。JA全農は、少年少女たちの夢の応援と健康な身体が育まれるようにという願いを込めて平成25年から同大会に協賛。最高峰の選手・大会の応援とともに、次世代の育成にも取り組むなど、日本卓球界の発展を支援しています。

●愛媛県果樹同志会 第4回総会

新会長に能田英文さん～新役員体制決める

愛媛県果樹同志会は、5月22日、松山市のJ A 愛媛で第4回総会を開き、会長に能田英文さん（えひめ中央果樹研究同志会・新任）を選任しました。

能田会長は、「前会長の功績を無にしないよう全力を尽くしたい。県内の果樹生産者の声を大切にしながら、安定生産、技術向上に努め、消費者に安全安心な果実を届けたい」と力強くあいさつしました。

県果樹同志会は、高齢化や後継者不足による会員の減少が進む中で、組織活動の維持・活性化を図ろうと、平成26年5月、男女の同志会組織を合併して発足。県内7地区の同志会と3地区の女性組織で構成されています。

平成29年度事業計画では、温州みかんの隔年結果是正対策と中晩柑類・落葉果樹類も含め高品質安定生産対策を最重点課題に、生産対策や生産基盤の整備と経営改善、農政活動や消費者交流活動、教育情報活動などに取り組むことを決めました。

TPP反対運動の展開や果樹政策の実現要請、全国および県農政組織との連携にも取り組んで



（写真左から）武内副会長、能田会長、長岡副会長、一色副会長

いくこととしました。

平成29年度のその他の主な役員は次のとおり（敬称略・カッコ内は所属同志会）。

▽副会長＝長岡隆浩（南予果樹同志会・新）、武内千恵（南予果樹同志会・再）、一色百合子（えひめ中央女性果樹同志会・再）▽監事＝石橋仁志（えひめ中央果樹研究同志会・再）、松浦喜孝（西宇和青壮年同志会・新）、岡田孝子（南予果樹同志会・再）、二宮保美（西宇和女性果樹同志会・再）

●平成28年産愛媛県柑橘類販売反省会

市場要望等を踏まえ今後の販売対策を協議

J A 全農えひめ果実課は、5月17日、松山市のJ A 愛媛で、29年産の販売に向け、「平成28年産愛媛県柑橘類販売反省会」を開きました。J A の販売担当部長、京浜・関東と関西地区の市場で組織しているマル媛会の会長が出席。28年産の販売総括を踏まえて出された市場からの要望等を中心に協議・検討しました。

平成28年産は、全般的に夏の干ばつで小玉果が心配されましたが、9月以降の雨で肥大が回復し、減酸が進んだことで、糖度は平年並みながらも食べやすい果実に仕上がりと、消費者の反応も良好でした。一方で、温州みかんの浮皮や、中晩柑含めてイタミ果や外観の悪さ等が目立ちました。量的、品質的要因により、単価高の販売で推移しましたが、様々な課題が残る結果となりました。

愛媛オリジナル品種の「紅まどんな」は、前年産は出荷規格の見直しや、低品質果の多発などにより出荷量が減少しましたが、本年産は作柄良好で前年を大きく上回りました。「甘平」は、夏場の高温、干ばつの影響で裂果が多発し、数量が少なく、2月下旬で販売終盤を迎え、早い切りあがりとなりました。クイーンズブラッシュは、3kg規



格を720箱出荷し、主に百貨店、果専店で販売されました。

市場からは、「価格と品質が伴っていない」「価格に見合った品質のものを!」「伊予柑は売り場を確保するためにも数量を維持してほしい」「紅まどんなは産地間の品質格差が目立つので、規格遵守し、品質と食味重視の荷造りに努めてほしい」「甘平は知名度が上昇し販売しやすくなっているが、天候に左右されやすく生産量の情報が不正確で売り込みがづらい」などの要望が出されました。今後、こうした意見・総括を踏まえ、29年産のスムーズな販売につなげることにしています。

●「フレッシュ市部会」総会

地産地消の推進・地域貢献に向けてチャレンジ！

5月22日、「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」の直売所出荷者(335人)で組織する「フレッシュ市部会」が総会を開きました。第20回目の総会では、オープン2年目を迎えた「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」の平成28年度の活動報告・会計報告を行い、29年度活動計画・予算計画等を確認しました。

28年度は、地区別座談会や視察研修会などを行ったほか、部会の活性化を目的とした「フレッシュ市だより」の発行をスタートし、部会と店舗との情報の共有化を図りました。

29年度活動方針では、魅力ある商品づくり、豊

富な品ぞろえにより消費者に支持される売り場づくり、収穫祭、年末感謝祭等のイベントに積極的に取り組み、地域との交流やファンづくりを通じて地産地消・食農教育などを推進していくことを確認しました。「近くて便利な地域コミュニティ」として、地域に密着した直売所を目指していきます。



●ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場

1周年を記念して創業祭を開催！

J A全農えひめが東温市で運営する農産物直売所とコンビニの一体型店舗「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」は、4月28日～4月30日の3日間、オープン1周年を記念して創業祭を開催しました。

期間中は、フレッシュ市部会による「うどんお接待」、「全農のお肉屋さん」による県内産ブランド肉の試食販売のほか、「えひめ・いよかんジュース」の試飲会、J Aえひめフレッシュフーズ(株)によるたまごつかみどり、ガラポン抽選会など日替わりで多彩なイベントやお買い得企画を実施し、大勢の買い物客で賑わいました。

4月30日に実施された「全農のお肉屋さん」による「愛媛あかね和牛」・伊予牛「絹の味」・「ふれ愛・媛ポーク」の試食販売会では、来店客から「柔かい」「おいしい」と好評でした。

「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」では、各種イベントを定期的実施し、地域とのふれあいや消費者との交流を深めるとともに、利便性の向上に努めています。直売コーナーの商品にもTポイントがつくことや日替わりサービス企画などのお得もいっぱいあります。ぜひ皆さんもご来店ください。



県内産ブランド肉の試食販売会

●新茶祭り

県内4産地の新茶をアピール

J A全農えひめ野菜花卉課は、5月27日と28日の2日間、伊予市のファーマーズマーケットいよっこらで、県内4産地の新茶を集め、「新茶祭り」を開き、試飲を交えて愛媛の新茶の美味しさをアピールしました。

このイベントは、新茶シーズンにあわせて毎年開いています。新宮茶・久万茶・宇和茶・鬼北茶を販売しました。特設コーナーでは、J AとJ A全農えひめの担当者、J A全農えひめモニターレディが、4産地の新茶を試飲してもらいながら、産地ごとの特徴やお茶の入れ方などを説明してPRしました。試飲した方は、「香りがよく甘い」「毎年楽しみにしている」などと話しながら好みの産地の

新茶を購入していました。

今年産のお茶は、J A松山市(久万茶)、J Aひがしうわ(宇和茶)、J Aうま(新宮茶・富郷茶)、J Aえひめ南(鬼北茶)で計34.9ha(前年同)で栽培。収穫量は前年比92%の22tを見込んでおり、数量は前年より少ないものの、渋みと甘味のバランスは良く品質は上々です。



なんでもBOX

●第52回記念えひめ花まつり

花のコンクールで寺田嘉明さんが生産局長賞

5月3日・4日の2日間、花に親しんでもらい花の消費拡大につなげようと、東温市の愛媛県農林水産研究所農業研究部花き研究指導室で、第52回記念「えひめ花まつり」が開かれました。

会場では、花の展示やフラワーオークションなどが行われ大勢の来場者で賑わいました。また、5月4日には、東温市農村環境改善センターで第52回記念「えひめ花まつり花のコンクール」表彰式が行われ、J A全農えひめを通じてデルフィニウムを出品した寺田嘉明さん（J A周桑）らが農林水産省生産局長賞を受賞しました。



▶農林水産省生産局長賞を受賞した寺田さんのデルフィニウム

●「いよっこら」運営協力会総会

“いよっこらファン” 拡大を

J Aえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっこら」運営協力会は5月16日、ウェルピア伊予で平成29年度の総会を開き、29年度事業計画を決めました。

平成29年3月に完成したリニューアル工事で広く明るくなった店舗を生かし、出荷会員からの青果物の品ぞろえの充実や拡張した花売場や惣菜売場の活性化と、鮮魚店の店内移設などによるリニューアル効果を最大限に生かした販売に取り組むほか、29年度は「消費者が直売所に求めるものは何か」をお客様目線でとらえ、出荷会員と店舗が一体となりそのニーズに応え、地域での存在感を強めていくことを確認しました。

29年度はオープン12周年を迎えることから、



「12周年感謝祭」をメインに様々なイベントや食農教育を実施するとともに、ミニラジオ番組やホームページを通じて、情報や魅力の発信、お客様との交流をさらに深めていきます。

●「いよっこら」12周年感謝祭

多彩なイベントで大盛況

J Aえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっこら」（伊予市下吾川）は、5月27日と28日の2日間、オープン12周年を記念して「いよっこら大感謝祭」を開きました。

期間中は、いよっこらの店名にちなんで、1,456円以上お買い上げの方先着400人に豪華景品が当たるお楽しみ抽選会、牛モモの丸焼き販売、餅つき大会、J Aえひめフレッシュフーズ(株)による卵のつかみどり、マグロの解体ショーなど楽しい催しを実施し、大盛況でした。



▲餅つき体験をする来場者

NOW NOW

COOKING

今月の素材

キュウリ



食べて、ひんやり効果①
涼しい夏へ、まっしぐら

（右）キュウリの肉みそ炒め、（後）お米のサラダ、（左）キュウリとイカの梅炒め



指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大佐古 正子先生

キュウリとイカの梅炒め

〈材料・4人分〉	※1人あたり約90kcal
キュウリ	2本
イカ	200g
きくらげ（乾）	2枚
新生姜（千切り）	1かけ
サラダ油	大さじ1
梅干し	4個
塩・コショウ	少々
醤油	大さじ1
ミョウガ（小口切り）	2本

〈作り方〉

- ① キュウリは縦半分に切り、5cm長さの斜め切りにする。
- ② イカは鹿の子に切り込みを入れ、ひと口大に切る。きくらげは水に戻して、短冊切り。
- ③ 梅干しは種をとり、4等分にする。
- ④ フライパンに油を熱し、生姜を炒めて香りを出し、②を炒め、塩・コショウをふる。
- ⑤ 火が通れば、①を炒め、③と醤油を加え、味を調える。
- ⑥ 器に盛りつけ、ミョウガをのせる。

お米のサラダ

〈材料・4人分〉	※1人あたり約173kcal
キュウリ	1本
① 五穀米	50g
② うるち米	50g
水（炊飯用）	120cc
ハム	2枚
ミニトマト	6個
ゆで卵	1個
塩・コショウ	少々
③ オリーブ油（E X V）	大さじ2
④ 酢	大さじ2
⑤ レモン汁	大さじ1～
バジル	4枚

〈作り方〉

- ① キュウリは5mm角に切り、塩水につける。
- ② ①を洗い、炊飯器で炊き、冷ましておく。
- ③ ハムは5mm角、ミニトマトは6等分に切り、ゆで卵は粗めに刻む。
- ④ ボウルに水気を切った①、③のハムとトマトを入れ、塩・コショウをふり、②と混ぜ合わせる。
- ⑤ 別のボウルに②を入れ、④とゆで卵を加え、塩・コショウで味を調える。
- ⑥ 器に盛りつけ、バジルを飾る。

キュウリの肉みそ炒め

〈材料・4人分〉	※1人あたり約228kcal
キュウリ	3本
赤ピーマン	1個
豚ひき肉	200g
サラダ油	大さじ1
ニンニク（みじん切り）	1かけ
生姜（みじん切り）	1かけ
白ネギ（みじん切り）	1/2本
輪切り唐辛子	3～5個
酒	大さじ1
砂糖	小さじ2
醤油	大さじ1
① 麦味噌	大さじ2
ゴマ油	大さじ1/2
すりゴマ	小さじ1

〈作り方〉

- ① キュウリとピーマンを長めの乱切りにする。
- ② フライパンにサラダ油を熱し、唐辛子、ニンニク、生姜を炒めて香りを出し、豚肉を炒める。
- ③ ②を加えてさらに炒め、水気がなくなれば、白ネギを加え、①を炒め、ゴマ油を加える。
- ④ 器に盛りつけ、ゴマをふる。

えひめ逸品柑橘
愛媛 河内晩柑 サイダー 期間限定

柑橘王国「愛媛」の隠れた逸品をお届け

「河内晩柑」は、樹に実ったまま冬を越えるため温かい気候を好み、日本では愛媛県を中心に生産されています。爽やかな香りと味わいが特徴の河内晩柑果汁炭酸をお楽しみください。

河内晩柑は和製グレープフルーツって呼ばれてるんだよ！

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

<http://www.ehime-inryo.co.jp>
(通販専用) <http://www.pom-j.com>

愛媛みかん大使募集

2017 THE 59TH
EHIME MIKAN AMBASSADOR
SINCE 1959



募集期間
〔当日消印有効〕

平成29年

6月9日（金）～7月10日（月）

賞品
愛媛みかん大使
（4名）全員に…

賞金20万円

応募方法



下記応募先に
応募用紙
または、履歴書を郵送！



JA全農えひめホームページ
から直接応募！
スマートフォンはこちらから▶



携帯サイト
から直接応募！
携帯サイトはこちらから▶



応募先および
お問い合わせ

〒790-8555 松山市南堀端町2番地3

JA全農えひめ 東支課 「2017 愛媛みかん大使募集係」

Tel. 089-948-5764 Fax. 089-948-5779 <http://www.eh.zennoh.or.jp>

みかん大使募集

検索

主催 JA全農えひめ

※個人情報の管理は、愛媛みかん大使事務局にて適切に管理し、選考（発表を含む）並びに記念品等の発送に利用させていただきます。

発行／全農愛媛県本部 〒790-8555
編集部／総務課 ☎(089)948-5323

松山市南堀端町2番地3
印刷／コープ印刷(株)

編集人／高井 雄二



環境に配慮した植物油インキ
を使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。